

第2学年 国語科指導案

期日 平成23年9月30日(金)
授業学級 第2学年男子12名女子5名計17名
授業者 渡辺 圭悟
授業場所 2年教室

1. 単元名 一 音読げきをしよう「お手紙」(光村図書「赤とんぼ」2年下)

2. 単元について

(1) 教材について

本教材は、第1学年及び第2学年の目標(3)「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受け、「C読むこと」領域の「ウ場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」が学習の中心となる。

本教材は、少しわがままで自分勝手ながまくんと、相手に対してとても優しく声をかけてあげられるかえるくん、いずれも二年生の心には、ぴったりとその心が感じ取れるお話である。この教材を通して、読むことの楽しさや作品のおもしろさを味わわせ、今後も長い物語やいろいろな本に興味をもって読むことができるようにしたい。

(2) 児童について

本学級の児童は、明るく元気な児童が多い。また、国語の物語文の学習では音読などで表現することが好きな児童が多いが、自分で想像した気持ちを進んで発表しようとする児童と、そうでない児童の二極化が見られる。国語の学習に対して苦手意識を抱いている児童が数名いるが、一人学びの仕方の明示や押さえない言葉や文の明確化をすることによって、少しずつ自分の考えを持てるようになり意欲的に、楽しみながら学習に取り組む姿が見られるようになってきている。

これまでの物語文の学習で、児童は、登場人物の気持ちが表されている部分を見つけかこんだり、場面の様子や人物の気持ちを想像して主人公日記を書いたり、想像した気持ちを吹き出しに書いたりし、それを基に音読し、読みを深められるようになってきている。

(3) 指導について

本教材の会話が多い特徴を生かして、役割読みで音読し、登場人物どうしのやり取りを想像力を働かせながらたっぷり楽しませたい。また、新たな学習活動としてペープサートを取り入れた音読劇を行う。「お手紙」の学習では、新たに「地の文」という用語を押さえない。地の文から主語、述語を読み取り、だれが言った言葉なのか、どんな気持ちで話しているのか考えさせることで、登場人物の気持ちの移り変わりなどを確かに読み取ることができるようにする力を身に付けられるようにしたい。

そのための手立てとして、それぞれの場面から、気持ちが表れている部分や言葉を見つけ、どのように音読すればよいかという音読劇の台本作りを意識させ、確かに読み取る力を身に付けたいと考える。

3. 単元の目標

◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。

○経験したことから書くことを決め、もらった人がうれしくなるような手紙を書くことができる。

4. 評価規準

〔国語への関心・意欲・態度〕

○物語の特徴を生かして、音読劇に表そうとしている。

〔読むこと〕

○時、場所、人物、出来事や、場面ごとの人物の様子を読み取り、人物の気持ちを想像している。〔(1) ウ〕

○登場人物の気持ちが表れるように、読み方を考えて音読している。〔(1) ア〕

〔書くこと〕

○だれに何を書こうかと考え、手紙にふさわしい形式で書いている。〔(1) ア・イ〕

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

○文中の主語と述語との関係を理解している。〔(1) イ (カ)〕

5. 単元の指導構想表・指導計画（全14時間）・・・別紙

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

二人の言動や幸せな思いなどを想像を広げながら読み取ることができる。

(2) 本時の指導について

本時は、最後の場面で、話の内容が大きく展開するところなので、何がどのように変化してきたかを踏まえて、二人の気持ちを考えさせたい。そのために、二人の気持ちが「とてもしあわせ」にかわっていくところを見つけ、想像豊かな音読劇につなげたい。

研究主題に関わって、確かに読み取る力を身に付けさせるために、次のような工夫をする。

ア 一人学び

〔押さえない言葉や文の明確化〕

・がまくんをうれしい気持ちにさせた手紙の内容を確認する。

イ 学び合い

〔押さえない文や言葉の明確化〕

・お手紙の内容を知ったあとのがまくんの会話を確認する。

〔発問の精選・工夫〕

がまくんが「とてもいいお手紙だ」と感じたのは、かえるくんのお手紙のどの言葉からだったのかについて話し合う。また、「ああ。」の一言にこもっているがまくんの気持ちについても前時までのがまくんの気持ちや様子を振り返りながら想像させ、児童の考えを深めさせる。

(3) 具体的評価規準

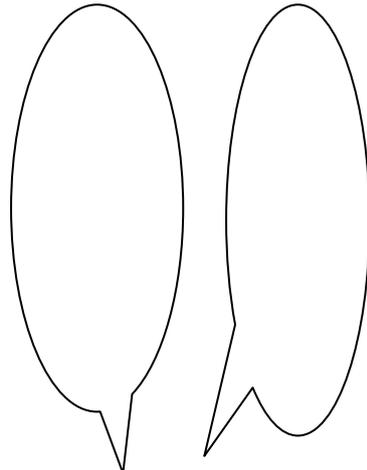
観 点	十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への支援
【読むこと】 二人の言動やしあわせな思いなどを、想像を広げながら読み取っている。	がまくんとかえるくんの気持ちが書かれている部分を見つけ、幸せな気持ちを読み取り、その理由も言うことができる。	がまくんとかえるくんの気持ちが書かれている部分を見つけ、幸せな気持ちを読み取ることができる。	かえるくんの手紙を読んだ後の会話文や行動に着目させる。

(4) 本時の展開

段階	指導内容・学習活動	重要語句・文	指導上の留意点 評価
導入 ・ つ か む	<p>1. 前時想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の場面でかえるくんはどんな気持ちでお手紙が来るのを待っていたか。 ・がまくんは、どんな気持ちでいたか。 <p>2. 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>手紙をまつ二人の気持ちを考えよう。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートや音読劇の台本、教科書の挿絵を見ながら、前時を想起させる。
展開 ・ 深 め る	<p>3. 本時の学習場面の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉読 <p>4. 場面の読み取り</p> <p><一人学び></p> <p>押さえない言葉や文の明確化</p> <p>(1) かえるくんが手紙を書いたことについて読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 13ページの絵を見てみましょう。がまくんはどんな顔をしていますか。 ・「えっ?! 本当?」という顔。 ・なんだかうれしいけれど信じられないなあ。 ○ どんな気持ちでかえるくんの話を聞いていたとおもいますか。 ・本当にお手紙もらえるんだ。 ・初めてお手紙がもらえるぞ。 ・うれしい。 <p><学び合い></p> <p>押さえない文や言葉の明確化</p> <p>発問の精選・工夫</p> <p>(2) かえるくんの手紙を待つ二人の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ がまくんがかえるくんからの手紙の内容を聞いて「とてもいいお手紙だ。」と思ったのは手紙のどの言葉からでしょう。 ・ 親愛なる ・ ぼくの親友 	<ul style="list-style-type: none"> ・「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」 ・「ぼくは、こう書いたんだ・・・。」 <p>『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみが ぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、叙述に即した読み取りをさせる。 ・挿絵の表情から、がまくんの気持ちを想像させ、手紙をもらえず悲しく投げやりになっていた気持ちから、お手紙がもらえることへの喜びや期待感へと気持ちに変化していくことをとらえさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親友であることをうれしく思っています ・ きみの親友 かえる <p>○がまくんの気持ちが一番強く表れていると思う部分に線を引いてみましょう。</p> <p>○なぜ二人はとてもしあわせな気持ちだったのでしょうか。二人は肩を組みながらどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ともだちがいてよかった。 ・ 親友がいてくれてうれしい。 ・ 親友が幸せな気持ちになってくれてよかった。 <p>二人が肩を並べてお手紙を待っている挿絵の吹き出しに、それぞれの気持ちを想像して書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「きみが。」 ・ 「ああ。」 ・ 「とてもいいお手紙だ。」 <p>・ ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、……。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ がまくんの気持ちが表れているところに印を付け、その理由を考えさせる。 ・ 二人の気持ちが表れている部分に印を付けさせる。 <p>【読】二人の言動や幸せな思いなどを、想像を広げながら読み取っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印を付けたところをもとに、ワークシートに二人の気持ちを想像して書かせる。
<p>終末 ・ ま と め る</p>	<p>5. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まとめの音読（役割読み） <p>○ふたりの様子を想像しながら、幸せな気持ちが表れるようにまとめの音読をしましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び合いで、印を付けたところに気をつけながら音読させる。

(5) 板書計画



二人の絵

めあて
お手紙をまつ、ふたりの気持ちを考えよう。

かえるくんからのお手紙

親愛なるがまくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。

「きみが。」
「ああ。」
「とてもいいお手紙だ。」
「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」

<単元指導構想表>

	1	2	3	4	5	6(本時)	7
目標	学習計画をたてることができ、物語のあらすじをつかむことができる。	主語、述語について知り、だれが言ったか会話文かを判断することができる。	「1の場面」を読み、手紙をもらえないがまくんの気持ちを会話文から読み取ることができる。	「2の場面」を読み、かえるくんがとった行動とそのわけを考え取ることができる。	「3の場面」を読み、がまくんとかえるくんのそれぞれの気持ちを会話文から読み取ることができる。	「4の場面」を読み、2人ともしあわせな気持ちでいたのはなぜか読み取ることができる。	「5の場面」を読み、お手紙が届くまでの2人の様子や、届いたあとの2人の気持ちを想像を広げて読むことができる。
課題	学習計画を立て、場面わけをしよう。	会話文のぬしをたしかめ、役割読みをしてみよう。	2人とも悲しい気持ちでいたのはなぜか考えよう。	かえるくんのしたことを読み取ろう。	かえるくんががまくんの家にもどったあとの、2人の気持ちを考えよう。	2人ともしあわせな気持ちでいたのはなぜか考えよう。	お手紙が届くまでの2人の様子や、届いたあとの2人の様子を想像しよう。
一人学び		一人学びの仕方を明示 地の文の主語、述語に着目して会話文のぬしを判断する。	一人学びの仕方を明示 会話文に着目して、がまくんの気持ちを想像させる。	押さえない文や言葉の明確化 かえるくんの行動を叙述から順序良く拾い出す。	押さえない文や言葉の明確化 繰り返し出てくる文を押さえ、かえるくんが手紙を待つ様子をとらえる。	押さえない言葉や分の明確化 がまくんをうれしい気持ちにさせた手紙の内容を確認する。	一人学びの仕方を明示 2人の様子を想像してしたこと日記を作る。また、手紙が届いたあとのセリフを想像して、吹き出しに書く。
学び合い	学び合いの形態の工夫 どのようなことについて読み取っていきたいのか話し合う。	学び合いの形態の工夫 全体で会話文のぬしを、その根拠(主語、述語)を確かめながら判断する。	発問の精選・工夫 玄関前で2人はそれぞれどんなことをかえんがえていたのか考える。	発問の精選・工夫 なぜかえるくんはおいそぎでうちへ帰り、がまくんにお手紙を書いたのか考える。	発問の精選・工夫 2人の会話のやりとりから、手紙を待つかえるくんと、なぜやりに気持ちのがまくんの様子を読み取る。	発問の精選・工夫 ねらいに迫る意見や考えの取り上げ かえるくんの手紙を2人はどんなことを考えながら待っていたのかを想像する。	ねらいに迫る意見や考えの取り上げ 想像して書いた日記や吹き出しの言葉を発表し合う。
まとめ		役割り読みをする。	2人の悲しい気持ちを想像しながら、まとめの音読をする。	かえるくんの思いを想像しながら、まとめの音読をする。	2人の気持ちのちがいや場面の様子を想像しながら、まとめの音読をする。	二人の様子を想像しながら、幸せな気持ちが表れるようにまとめの音読をする。	文章を補ったり、セリフを補ったりしながら、工夫して音読する。
評価規準	【読】物語を読み取る時の方法を思い出し、物語のあらすじを考えている。	【読】地の文の主語、述語に着目しながら、誰の会話かを判断している。	【読】がまくんの気持ちを会話文から読み取っている。	【読】かえるくんの行動を叙述をもとに順序良く読み取っている。	【読】2人の会話から、気持ちの違いを読み取っている。	【読】二人の言動や幸せな思いなどを想像を広げながら読み取っている。	【読】手紙が届くまでと届いたあとの様子を想像している。

	8	9	10	11	12	13	14
目標	好きな場面を選び、場面の様子や人物の気持ちが伝わるような、音読劇の台本作りができる。	場面の様子や人物の気持ちが伝わるような、音読劇の台本作りができる。	リハーサルをひらいて、よりよい読み方やペープサートの動かし方についてアドバイスし合うことができる。	学習したことをもとに、見ている人や、聞いている人に場面の様子や人物の気持ちが伝わるように音読劇を行うことができる。	誰にどんなことを書くのかを考え、手紙の形式に沿って書くことができる。	誰にどんなことを書くのかを考え、手紙の形式に沿って書くことができる。	「お手紙」の学習を通じて、学んだことをふり返ることができる。
課題	好きな場面を選んで、音読劇の台本とペープサート作りをしよう。	選んだ場面の、台本を作り音読劇の練習をしよう。	「お手紙劇場」のリハーサルをして、読み方やペープサートの動かし方を確認しよう。	「お手紙劇場」をひらこう。	受け取った人が、うれしい気持ちになるような、手紙を書こう。	受け取った人が、うれしい気持ちになるような、手紙を書こう。	学習のふり返りをしよう
一人学び	一人学びの仕方を明示 どのような読み方の工夫をしたら場面の様子や人物の気持ち伝わるかを考える。				一人学びの仕方を明示 相手、差出人、三文程度の内容で書くこと、どんな内容がふさわしいかを確認する。	一人学びの仕方を明示 相手、差出人、三文程度の内容で書くこと、どんな内容がふさわしいかを確認する。	一人学びの仕方を明示 「お手紙」の学習で新たに学んだことを再確認する。
学び合い	学び合いの形態の工夫 グループごとに読み方の工夫を話し合い、音読劇の台本を作る。ペープサートの表情などを考える。	学び合いの形態の工夫 グループごとに読み方の工夫を話し合い、台本を作り音読劇の練習する。	学び合いの形態の工夫 グループごとに練習をしたあとで、リハーサルを行い、良い点や改善したほうが良いところなどを指摘しあう。	学び合いの形態の工夫 発表を聞いて、良かったところを伝え合う。			
まとめ							お手紙の学習をして学んだことや、感想を発表する。
評価規準	【関】場面の様子や人物の気持ち伝わるような読み方の工夫を考え、音読に表そうとしている。	【関】場面の様子や人物の気持ち伝わるような読み方の工夫を考え、音読に表そうとしている。	【関】より良い発表になるように、工夫したり、お互いに指摘しあっている。	【関】様子や気持ち伝わるように発表の仕方を考えている。他のグループの発表を聞いてよいところを見つけようとしている。	【書】誰に何を書くのかを考え、手紙にふさわしい形式で書いている。	【書】誰に何を書くのかを考え、手紙にふさわしい形式で書いている。	【関】単元を通じて学んだことを自分の言葉で表そうとしている。